

平成23年度第2回 市川市総合計画審議会 会議録

日 時：平成23年10月31日（月）午後3時00分～午後4時30分

場 所：市川市役所3階 第5委員会室

出席者（委員名の五十音順、敬称略）：

秋本のり子、生田やよい、歌代 素克、潟山 英清、加藤 武央、小泉 文人、
國府濱敦子、酒井 玄枝、坂田 幸康、佐藤 賢治、須保 毅、瀧上 信光、
中島 明子、中村 義雄、守屋 貴子、山口 繁雄、渡邊 義徳 以上17名

審議内容：第三次総合3ヵ年計画について

○事務局（大津） 定刻前ではございますが、皆様おそろいになりましたので、審議会を始めさせていただきたいと存じます。

本日はお忙しいところ、平成23年度第2回市川市総合計画審議会にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

私、議事に移る前の進行を務めさせていただきます企画・広域行政課長の大津と申します。よろしくお願いいたします。

会議に先立ちまして、事務局から1点ご報告がございます。去る9月14日、市議会議員から推薦された当審議会の委員でございます増田三郎氏のご逝去されました。市政発展のためにご尽力された長年の功績に対しまして深く敬意を表しますとともに、ご冥福をお祈りしたいと存じます。

後任の委員といたしまして、平成23年10月4日から平成25年5月25日までの任期で加藤武央委員に新たに委嘱させていただくことになりました。新しい名簿につきましては、お手元にご用意させていただきましたので、よろしくお願いいたします。

それでは、加藤委員、一言ごあいさつをいただければと存じますので、よろしくお願いいたします。

○加藤委員 皆さん、こんにちは。ただいま委嘱をさせていただきました加藤武央でございます。10月4日付けで委嘱をいただきました。本当にありがとうございます。審議会の発展のために、微力ではございますが、一生懸命に与えられた期間を全うしたいと思いますので、どうかよろしくお願い申し上げます。（拍手）

○事務局（大津） ありがとうございました。

これから議事に入りますが、企画部長は本日公務が重なっておりまして、誠

に恐縮ではございますが、15時30分に退席させていただきますので、あらかじめご了承くださいと存じます。

それでは、議事を会長に引き継がさせていただきます。瀧上会長、よろしくお願いいたします。

○瀧上会長 皆さん、こんにちは。お忙しいところ、ありがとうございます。ただいま事務局から報告がございましたが、増田委員におかれましては、任期途中でお亡くなりになりました。誠に残念なことだと思いますが、審議会の開会にあたりまして、増田委員のご冥福をお祈りいたしまして、黙祷をささげさせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(黙祷)

○瀧上会長 どうもありがとうございました。ご着席ください。

それでは、平成23年度第2回市川市総合計画審議会を開会いたします。

まず、本日の審議会は、委員定数22名のうち17人出席で過半数を超えており、定足数を満たしております。したがって、本審議会は成立をいたしております。

次に、傍聴人でございますが、市の会議公開に関する指針では、審議会等の会議は公開を原則とする旨定められておりますことから、本日の会議を公開といたします。ご異議はございませんでしょうか。

(異議なし)

○瀧上会長 異議なしということで、公開といたします。

傍聴人の方、おられましたらどうぞ。

(傍聴人入場)

それでは会議を進めさせていただきます。

次に、会議録でございますが、事務局が作成し、会議録署名人に内容をご確認いただくことになっております。今回は、鴻山委員と小泉委員にお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(了承)

どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、本日の会議次第の2に入らせていただきます。

第三次実施計画についてのご審議をお願いします。

この第三次実施計画は、平成13年に策定されました第一次基本計画のもとで、平成20年

度から22年度まで実施されたものでございます。本日は、その結果が取りまとめられましたので、事務局から報告を受け、これに対してご審議をお願いいたします。

既にこの4月から新たに今後10年間の第二次基本計画がスタートし、そのもとで策定された3年間の第一次実施計画が推進されておりますが、この第一次実施計画は昨年度までの第三次実施計画の事業の多くを引き継いでおります。このため、この審議会では、第三次実施計画の検証を行っていただき、そのご意見などを第三次総合3ヵ年計画実績報告書の中に加えるとともに、現在進行中の第一次実施計画の的確な推進や、今後の見直し、ローリングに活用していただくことを目的としております。

それでは、審議に先立ちまして、まず事務局より第三次実施計画の結果についての説明をお願いいたします。

○事務局（大津） それでは、まず資料の確認をさせていただきます。さきにご郵送させていただきました「実績報告書（案）」、それから「第三次総合3ヵ年計画の計画書」、「市川市総合計画の体系」、審議会委員名簿、席次表、前回の審議会の議事録を配付させていただきました。

それでは、資料に基づき「実績報告書（案）」について板垣主幹から説明をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○事務局（板垣） 皆様、こんにちは。企画・広域行政課の板垣です。よろしくお願いいたします。

それでは、第三次実施計画につきましてご説明させていただきます。

実績報告書の説明の前に、市川市の総合計画の構成（体系）についてご説明いたします。

市川市総合計画につきましては、基本構想、基本計画、実施計画の三層構造となっております。総合計画のうち基本構想は、平成37年までを計画期間とし、目指すべき将来都市像として「ともに築く 自然とやさしさがあふれる 文化のまち いちかわ」を掲げております。基本構想は、平成13年度から25年間ということで平成37年度まで続きますが、基本構想のもとで基本計画と実施計画が定められております。基本計画は、基本構想を具現化するための基本的な施策を定めております。また、実施計画につきましては、基本計画に示された施策を実現するための具体的な事業を定めております。

平成13年度からの基本構想のスタートとともに、平成22年度までの10年間を計画期間とします第一次基本計画が同時にスタートしました。また、実施計画につきましても、平成

13年度から17年度までの5カ年を計画期間とした第一次実施計画、そして18年度から20年度までを計画期間とした第二次実施計画、そして20年度から22年度までの第三次実施計画を推進してまいりました。本日は、第三次実施計画について報告させていただき、ご審議いただきますが、先ほどご説明ありましたとおり、平成23年度よりスタートしております第一次実施計画のローリング、そして次期実施計画の策定に活用をさせていただきたいと考えております。

それでは、冊子「実績報告書（案）」をご覧ください。

1ページから11ページまでは「第1編 総括」としまして、計画人口、事業費評価及び施策評価について、基本目標別 財政評価及び施策評価、そして実施計画事業の計画額、実績額を一覧にした事業別内訳という構成になっております。また、13ページから91ページまでは、「第2編 分野別実績報告」としまして、各実施計画事業、81事業の事業実績と評価を記載しております。そして、93ページ以降ですが、「参考 市民の意向」といたしまして、第一次基本計画の評価をまとめるために実施をしました市民意向調査（平成21年12月に実施）の結果を掲載しております。

実績報告の説明につきましては、総括の部分を見ながらご説明させていただきたいと思いますが、各実施計画事業の個別シートを総括したものとなっておりますので、まず、初めに1事業を例にとってページの見方をご説明いたします。26ページをお開きください。

12番知的障害者施設（松香園）整備事業です。まず、1番上に事業名と括弧書きで所管、担当課が記載されております。担当課につきましては、計画策定時ということではなく、平成23年4月1日現在、現在の所属として掲載しております。

次の段が事業計画概要で、事業の概要を記載しております。この事業につきましては、老朽化した松香園を平成21年度までに建てかえるとともに、5名の定員増を図り、重症心身障害者の通所事業を実施する計画となっております。

その下の段は、計画に対して、平成20年度から22年度の年度ごとの事業実績を記載しております。20年度には、既存園舎の解体撤去工事とともに新築工事着手となっております。21年度は、新築工事と備品の購入、21年度中に工事が完了し、22年4月1日に新園舎に移るとともに、定員増と重症心身障害者の受け入れというようになっております。

その下に、事業費として計画額と実績額、その下には数値目標と実績があり、一番下に担当課における評価と、その理由を記載しております。

評価は4段階で評価しておりますが、評価の基準につきましては、事業計画に示された

項目を達成しているかどうか、終期のある事業で、予定どおり事業が完了しているかどうか、課題を解決しているかどうか、数値目標を達成しているかなどに加え、数値等の向上、改善や施策への寄与度などの要因を勘案した上で、「十分達成できた」「概ね達成できた」「やや不十分であった」「不十分であった」の４段階で評価をしています。

なお、知的障害者施設（松香園）整備事業につきましては、事業計画に示されたすべての項目を達成していることから、「十分達成できた」との評価がされております。

このように、81事業すべての事業において個別シートで実績と評価を取りまとめ、「総括」において、その評価を取りまとめております。

それでは、「第1編 総括」2ページをお開きください。

初めに、計画人口についてですが、平成20年4月の本実施計画策定時において、平成22年の計画人口を47万6,000人として推計しておりました。平成22年国勢調査によれば、市川市の常住人口は47万4,926人で、0.2%ほど下回る結果となりました。

次に、事業費評価と施策評価でございますが、実績報告の中では、事業費評価として、予算となる計画額に対して実績額はどうかという視点で事業をとらえております。また、施策評価につきましては、計画事業の達成度をそれぞれ評価することにより、事業の目的である施策が達成されたかという視点でも評価をしています。

同じく2ページ中段の表をごらんください。

計画期間である平成20年度から22年度までの計画事業費と実績額を基本構想の中で定められた5つの基本目標ごとにまとめております。「真の豊かさを感じるまち」は、主に保健、福祉、教育、生涯学習などの分野を、「彩り豊かな文化と芸術を育むまち」は、文化や芸術について、「安全で快適な魅力あるまち」は、消防、防災、都市基盤整備、防犯などの分野、「人と自然が共生するまち」は、環境や自然について、そして「市民と行政がともに築くまち」は、市民参加、協働、行財政運営、情報化などの分野の施策・事業となっております。

表の上段の括弧書きが計画額になりまして、下段が実績額となります。表の一番下の合計欄をごらんください。20年度は、計画額328億円に対して実績は320億円、21年度は125億円に対して123億円、22年度は169億円に対して実績は124億円で、3カ年の合計は、計画額623億2,994万4,000円に対して、実績額は569億3,401万9,000円で、執行率は91%となります。また、対計画額ではマイナス約53億円となっております。3年間に於いて、ほぼ計画どおりの執行となっており、事業費に関しては、おおむね財政計画どおりであると評

価いたしました。

次に、施策評価についてでございます。

本計画に位置づけられた81事業について、各担当課が3年間の実績を踏まえた評価を実施いたしました。81事業のうち83%に当たる67事業は「十分達成できた」、もしくは「概ね達成できた」と評価されております。

平成20年度からの3年間については、世界的に大流行した新型インフルエンザや、この3月の東日本大震災などの発生から、市民の安全や安心に対する関心が非常に高くなりました。この3年間において、市の行った市民の健康づくりに向けたまちづくり、子育て支援対策、都市の再整備、安全・安心に向けた取り組みなどを総合的に判断した結果、実施計画全体については「概ね達成できた」と評価いたしました。

次に、基本目標ごとに見てまいります。4ページをごらんください。

基本目標1については、3カ年の計画額、約109億円に対して、実績は127億円で、執行率は116.8%、プラス18億円となっております。主な理由としまして、浦安市川市民病院民営化事業において、計画額未定としていたものを事業費「0円」としてカウントしたことにより執行率が高くなっておりますが、浦安市川市民病院民営化事業の事業費を差し引きますと、執行率は100.8%となり、ほぼ計画どおりとなり、財政上は「十分達成できた」と評価いたしました。

施策評価におきましては、26事業のうち8事業が「十分達成できた」、14事業が「概ね達成できた」という結果から、全体として「概ね達成できた」との評価といたしました。なお、「やや不十分だった」と評価された特定健康診査・保健指導事業については、今後、さらなる啓発を図っていくとともに、子育て支援地域創設事業及び家庭教育学級運営事業についても充実・強化を図ってまいります。

次に、基本目標2、5ページをごらんください。

3カ年の計画額、約3億9,300万円に対して、実績は4億7,400万円で、執行率は120.7%、プラス8,100万円となっております。史跡整備保存事業においては、計画額以上に史跡の公有地化を進めることができましたが、全体としては実績額が計画額を2割ほど上回る実績となっていることから、財政上は「やや不十分だった」と評価しております。

施策評価は、全体6事業において「十分達成できた」が3事業、「概ね達成できた」が3事業であったため、全体として「概ね達成できた」としております。

次に、基本目標3、6ページをごらんください。

3カ年の計画額、約475億円に対し、実績は423億円、執行率89%で、マイナス52億円となっております。主な理由としまして、本八幡北口地区再開発事業において、経済不況などから工期が変更となったことや、行徳地域の地域コミュニティゾーン整備事業において、地権者との交渉に時間を要し、当初予定していた平成22年度の造成工事に着手できなかったことなどが挙げられますが、全体としましては計画額の範囲内であり、財政上は「概ね達成できた」と評価しております。

施策評価については、30事業のうち「十分達成できた」が10事業、「概ね達成できた」が14事業、「やや不十分だった」が6事業という結果で、全体として「概ね達成できた」と評価しました。なお、「やや不十分だった」とされた事業のうち、耐震診断助成事業、都市基盤河川改修事業、商店街活性化事業、市川漁港整備事業につきましては、引き続き本年度からの第一次実施計画に位置づけ、進捗管理を図ってまいります。また、浸水対策事業については、第一次実施計画で排水路整備事業及び排水施設整備事業として総合的に取り組んでいくほか、地域コミュニティゾーン整備事業についても、調査及び地権者との交渉を継続してまいります。

次に、基本目標4、7ページをごらんください。

3カ年の計画額、約32億円に対して、実績は12億円、執行率は37.6%、マイナス20億円となっており、計画額を大きく下回る実績額となりました。これは、クリーンセンター延命化計画事業において、事前の協議、調整を十分かつ慎重に図るため、工事の着手を21年度から22年度に繰り越したこと、また、国府台緑地整備事業において、用地取得が計画より遅れたこと、また、小塚山公園整備拡充事業において、計画期間内に用地買収が行われなかったことなどによるものでございます。実施計画全体の執行率は37.6%で非常に低かったことから、財政上は「やや不十分だった」と評価しております。

施策評価については、9事業中、国府台緑地整備事業が「やや不十分だった」の評価のほか、小塚山公園と南行徳水辺の周回路計画の2事業が「不十分だった」の評価であったことから、全体として「やや不十分だった」と評価しております。国府台緑地整備事業及び小塚山公園整備事業については、引き続き第一次実施計画に位置づけ、進捗管理を図ってまいります。

最後に、基本目標5、8ページをごらんください。

計画額、約2億3,200万円に対して、実績は1億6,500万円で、執行率は71.3%、マイナス6,600万円となっております。

主な理由としまして、市川情報化市民パートナー育成推進事業において、IT講習会受講者の減などにより、計画額に対して実績額がマイナス5,400万円となったことなどが挙げられ、全体の執行率も71.3%と低いことから、「やや不十分だった」と評価しました。

施策評価につきましては、全10事業のうち、「十分達成できた」が3事業、「概ね達成できた」が6事業、市民参加の推進1事業のみが「やや不十分だった」という結果でしたが、市民参加、市民との協働につきましては、基本目標5「市民と行政がともに築くまち」における代表的な事業であり、市として重点的に取り組む事項であることに鑑み、全体としては「やや不十分だった」と評価しております。

以上、5つの基本目標ごとの評価について説明をいたしましたが、9ページから11ページにわたりまして、A3見開きで事業名、3年間の計画事業費と実績事業費、そして差し引き額と担当課による自己評価を一覧表としてまとめてございます。

実績報告書の概要につきましては、以上のとおりですが、先ほども説明したとおり、本計画に位置づけた81事業のうち、継続して工事を行うもの、引き続き重点的に実施していくものなど、42事業について第一次実施計画に引き継いで進捗管理を行ってまいります。

以上で説明を終わります。ありがとうございました。

○瀧上会長 ありがとうございました。ただいま事務局のほうから、「実績報告書（案）」の中の第1編の総括編、その中で基本目標別 財政評価及び施策評価を中心として実績報告がございましたが、ただいまの報告につきまして、皆様からご意見等を出していただきたいと思います。ただいま説明がありましたのは第1編の総括編でございますが、まずはその総括編の今の説明の範囲について、ご意見をいただき、さらに、事前にお読みいただいた上で、第2編の分野別実績報告のところでお気づきの点等がありましたら、その後でご意見等をいただければと思います。

それでは、まず、ただいま説明のありました「第1編 総括」の計画人口、事業費評価及び施策評価と、基本目標別、財政評価及び施策評価についての説明等につきまして、ご質問、ご意見をよろしく願いいたします。この範囲でどこからでも結構でございますので、どうぞよろしくお願いします。

○加藤委員 実績報告書の評価の区分についてですが、「やや不十分だった」と「不十分だった」の差がわかりにくいように思います。「やや」がつくか否かの評価はどのように判断をしているのかお聞かせください。

○瀧上会長 それでは、今のご質問の「不十分だった」と「やや不十分だった」の区分け

の考え方を教えてください。

○事務局（大津） 事務局のほうからご説明させていただきます。

まず、この評価は、単年度ではなくて3年間の計画期間について取りまとめさせていただいたものです。

評価につきましては、「達成」と「不十分」、大きく2つに区分をしております。例えば「達成」であれば、終期のある事業については、当初の予定どおり事業を完了したのかどうか。完全に完成したのであれば、当然、「十分達成できた」となります。前倒しで達成したのか、あるいは課題を解決した、課題は解決しなかったが、一定の成果は見られたというものであれば、「概ね達成できた」というようにある程度の区分を設けて達成の状況の評価しております。逆に「不十分だった」については、終期のある事業であれば、当初の予定どおり事業を完了しなかったものは「不十分だった」という評価をしています。ただ、別の形で同様の効果を上げているようなものについては「やや不十分だった」というところで、この区分けについては、かなり主観的な評価になっているというのは事実でございます。その主観的な評価を委員の皆様方から意見をいただきながら、客観性を少しでも高めていきたいというところで、私たちの自己評価をご提示させていただいております。必ずしもこれが万能であるかという、そうではないという認識をしております。

基本目標も同様に評価をしているのですが、施策評価については、例えば第5章 基本目標5 市民と行政がともに築くまちにおいては、「十分達成できた」が3項目、「概ね達成できた」が6項目で、普通であれば「概ね達成できた」という区分になると思います。ただ、この基本目標は「市民と行政がともに築くまち」ということで市民との協働を謳っている基本目標でございまして、優劣をつけるわけではありませんが、その中の市民参加の推進というのは非常に重要な施策であると考え、この事業の評価が「不十分だった」ということで、全体として「やや不十分だった」という評価をさせていただいたところでございます。この点についてもご意見をいただければと考えております。

○瀧上会長 よろしいですか。

○加藤委員 結構です。

○中島副会長 評価についてですが、今の「やや不十分だった」というあたりがいろいろなものがまざっているような気がして、「十分達成できた」「概ね達成できた」と評価するのなら、その次は「やや達成できなかった」「達成できなかった」となるべきと考えますが、「不十分」という言葉だから、解りにくいように思います。いろいろ見ていると、1つは

「やや不十分だった」という中には、十分に達成できなかったということと、達成する、しないではなく、計画が大きく変更になって計画通りにいかなかったもの、目標は達成しているのに財政負担が想定より大きくなったことを問題と捉え、「やや不十分だった」としているものがあるように感じます。これらを「やや不十分だった」と評価すべきなのかよくわからなかったのですが。

○瀧上会長 それでは、今の評価の考え方をもう1度お願いします。

○事務局（大津） 副会長のおっしゃられた部分は、そのとおりでございます。特に事業の中で「不十分だった」の評価で、事業としての実績は上がっているものの、計画額以上にお金をかけ過ぎている場合、これも効率性や有効性を考えると、評価としては「不十分だった」という評価をしております。ご指摘のとおり、評価について様々側面から整理をさせていただいているので、わかりにくい面があるかも知れません。客観性をどう高めていくかということであろうかと思いますが、自己評価の部分では、かなりさまざまな要素が入り込む中で評価をさせていただいているところは事実でございます。

○瀧上会長 今回の評価の中で財政評価と施策評価と2つありますが、これらについて、後のほうの各論にいきますと（担当の評価）という表示になっていますが、財政評価は財政課の評価であって、施策評価はその施策の担当課の評価という理解でいいのですか。

○事務局（大津） 個々の81事業につきましては、それぞれ所管部、課がございますので、そちらのほうの財政の評価と施策の評価の個別の評価を合わせたものを評価とさせていただいています。全体の評価としては、基本目標レベルの評価で申し上げますと、複数の担当が実施した事業を相対的な視点で見ることになるため、これについては企画部門において評価をさせていただいております。やはり個々の評価を合わせた中では、事業費の面と施策の面、成果、実績を評価することに分けて評価することにより、わかりやすくなるよう、そのような考え方で整理をさせていただいたものでございます。

○瀧上会長 企画部が中心となってやったということですね。わかりました。

それでは、ほかにございませんか。

中村委員、お願いします。

○中村委員 今回の財政評価と施策評価に関連するのですが、例えば4ページの部分で市川浦安市民病院民営化については、計画額について「0円」で計画した。それについては、「23年度以降の第一次実施計画においては、安易に計画額を『未定』として取扱うことのないよう、注意していく必要がある」とか、基本目標2にも、23年度以降の第一次実施計

画について、こうしていく必要があるという次への取り組みについての考え方や反省点と
いったものが書いてあるのですが、一方、3とか4については単なる財政上の「やや不十分
だった」とか、「概ね達成できた」ということで、5については「必要に応じてローリ
ング等を実施する」ということで、ちょっと温度差がある。1とか2については、かなり
しっかり評価をした上で、次への活かし方が示されていますが、それ以外については、あ
る意味行政的な書き方というか、その先どうしていくのかという姿勢が全くわかりづらい
部分があるんですけれども、これについて、どうしてこういう評価になったのかを教えて
ください。

○瀧上会長 今の基本目標1、2の評価と3以下の評価で若干温度差があるということであ
りましたけれども、そこは考え方として変わっていないということなのか、整理の仕方
でこのようになったということなのか、その辺について説明をお願いします。

○事務局（大津） 1、2、3に4、5も含めて、整理の仕方としては同じ考え方で整理
をさせていただいたつもりです。ご質問のありました浦安市川市民病院につきましては、
計画の冊子の15ページをごらんいただきたいと思います。3の健康ゾーン構想もそうであ
りますが、第一次実施計画の場合につきましては、予算事務事業を伴っているものについては、
事業費、財源内訳、国庫補助金、一般財源等をすべて事業費ベースで押さえて全体を中期
財政見通しにも反映させる形で計画をつくってまいりましたが、一方の第三次総合3ヵ年
計画につきましては、事業費を未定としたものは、ご指摘の事業を含めていくつかありま
した。事業を実施した結果、未定とした事業でも実績があったものもあるので、計画に対
する実績という面からみますと、イレギュラーな取り扱いになったものもあります。その
結果、計画額に対する実績額の評価としては、異なった評価になってしまったものがある
ということでございます。新たな実施計画について、こういった反省をどのように活かし
ているのかということをお話させていただきたいと思います。

3点ほどございまして、まず1点目でございますが、この評価をしていく中で、81事業
を第三次総合3ヵ年計画では選定してまいりましたが、一部の所管だけの計画という面が
ありまして、市全体として推進する体制を整えていなかった部分もございまして。やはり基
本計画というのは市全体の計画でございますので、この基本計画の体系に立って、新たな
計画では、課に相当する仕事を原則に中分類から1事業を選定することを基本原則として
全体的な進捗管理を図っていくことにさせていただきました。

2点目としては、進捗管理についてですが、予算時は議会に対してお示しする「当初予

算の概要」、決算時には「主要な施策の成果に関する報告書」できっちり目標に対して実績がどうであったのかということをもとめてご報告をさせていただき、公表してまいりたいと考えております。

3点目としては、今申し上げました第三次総合3ヵ年計画の81事業の中で、事業が完了しなかったもの、あるいは今後も施策を支える重要な事業と考えられるようなものなど、半分以上の42事業を引き継いでいるということで整理をさせていただいたところでございます。

○瀧上会長 中村委員、今の事務局の説明でよろしいですか。

○中村委員 はい。

○瀧上会長 それでは、ほかにご意見、ご質問がありましたらお願いします。

(なし)

○瀧上会長 それでは、事務局からは具体的な説明はなかったのですが、分野別実績報告について、15ページ以降の各論のところで、事前にお読みいただいて何かお気づきの点等がありましたらお願いいたします。

○中島副会長 37ページの市川市DV対策事業についてです。「電話及び面談による相談対応可能件数」の「可能件数」は何ですか。

○事務局（大津） これについては、相談対応可能件数280件を目標に、対応が可能になるように進めていく計画でした。実際、相談した件数は何件だったという実績でご報告させていただいているものです。

○中島副会長 そうすると、この評価をする場合ですけれども、20年度280件が可能件数になっていて、実績は336とかなり大幅に上回るわけですね。次も280件と、これは最初から3ヵ年計画で決めていたためにフィックスになってしまったわけですね。それで、その年もまた上回っていて、22年度もさらに上回ったわけですね。だから、達成したことは確かだけれども、280件が少なかったという評価もできるわけですね。本当はもっといろいろ対応したほうがよかったんじゃないかとか、そういうあたりはどう見たらいいか。「概ね達成できた」というのが、何か違和感を感じていて、「やや不十分だった」という言葉では変ですから、「もう少し拡充すべきであり目標が少なかった」と、もし文章で書くなら、そういう評価になるのではないかと思ったのですが、いかがでしょう。

○事務局（大津） 実際に評価をするときは、副会長ご指摘の部分は、全く配慮していなかった部分がございますので、計画をローリングするとか、そういった中で数値目標も見

直すべきだろうというご指摘かと思います。実際はDV対策事業の計画の概要としましては、DVについて対応強化を図るため、相談事業を強化するというのが1つ、それから、迅速な対応を図るために対応マニュアルを作成しますというのが2つ。相談体制事業については強化して、実績としては上がっているということですが、対応マニュアルが作成できなかった。大きく言うと、指標としては相談の可能件数を大きな指標にしていますけれども、事業の計画としては、相談事業の強化と対応マニュアルの作成というところがある中で、対応マニュアルを作成できなかったというところで、「概ね達成できた」という評価にさせていただいたということでございます。そのような所管の自己評価でございます。

○中島副会長 そうすると、「概ね達成できた」というニュアンスでいいのですかね。「やや不十分だった」というふうにして、今後の検討課題にしてもいいのではないかと思います。

○事務局（大津） 今の意見をいただきながら、評価のコメントをつけさせていただくような形で改めていきたいと考えております。

○守屋委員 全体的に何となくわかりづらいなという気がいたします。1つ1つ見て追いかけていかないと数字が読めないというところで、ちょっと見づらいなというのと、評価の部分についても、今お話があったのかもしれないのですが、こう評価した、だからどうするということまでは、実績報告のところには書かなくていいのかということもお伺いしたいです。わかりづらいというところに関しては、例えば数字が出ていますけれども、プラスだったのか、マイナスだったのかというのもきちんと表示をするべきだと思います。マイナスで出ている数字のところ、例えば27ページの少人数学習等担当補助教員事業のところ、目標の数と実績の数が違ってきていて、実績が目標に達していなかった場合はマイナス表示とはしないのでしょうか。見ている人がもう少しわかりやすい表にならないものかなと思っているんですけれども、お願いします。

○事務局（大津） マイナス評価を記載することは可能ですけれども、必ずしもマイナス評価を出すことによって、達成できなかったという部分もあれば、そうじゃないものもあるのかなというところもあろうかと思います。ただ、冊子のボリュームの都合はありますけれども、今ご指摘の部分、例えば金額についても、計画に対して実績額がマイナスなのか、プラスなのか、それから数値に対してマイナスなのか、プラスなのか、そういった見やすさということを考えてみて全体をまとめたいと思います。

○守屋委員 今の見やすさのところは、ぜひもう少しわかりやすく考えていただきたいということを要望しておきます。

評価の部分は、「不十分だった」と評価したというふうに終わるのですけれども、そうではなくて、こういうところがだめだった、だから、こういうふうにつなげていきますというところまで踏み出して書けないのかなということも聞いたのですけれども。

○事務局（大津） すみません。まとめのところでは若干触れているのですけれども、個々に次の計画につなげていくというところの部分があらうかと思いますので、それは、それぞれ81事業ある中で42事業、達成できなかった部分については、次期の計画に継承するという個々の表の中で触れるような形で記載していきたいと思います。

○瀧上会長 今の点については、今度は第一次計画のローリングがありますので、この実績を踏まえての計画にもなっていますので、そこでまた議論をしていただければと思います。

確かに今、限られたスペースの中でいろんなことを書いているので、もう少し親切に書けないかなということはあると思いますが、事務局から今説明のあったような考え方で整理をしているということで、ご理解いただきたいと思います。

ほかにございませんか。

○中村委員 35ページ、若年者就労支援事業についてです。これも先ほどの質問に関連するのですけれども、財政上の部分から見ると予算の執行率がすごく低くて、一方で、この評価そのものについては、目標は延べ42人で、そのうちの達成就職者数は、そこにはいないのですけれども、「概ね達成できた」という評価です。先ほど副会長からもありましたけれども、そもそもの目標の設定がどうなのかということと、数的に近くなったから、全体の評価として「概ね達成できた」というのは、ここから見ると、もっと予算をかければ、もっと工夫すれば、もしかした目標以上の就職者数を獲得できたのではないかと、そういった細かいところも気になりますので、その点について所見をお伺いできればと思います。

○事務局（大津） 数字につきましては、括弧書きの合計で申し上げますと、42人の就職目標に対して、結果的に40人の就職者があったということで、この目標に対してどうだったのかということで、「概ね達成できた」というような評価をさせていただいたものでございます。先ほど副会長にもお話ししましたとおり、目標設定について、ローリングの際に、次期の基本計画については、例えば大きく目標を上回るような実績があるのであれ

ば、目標設定自体が妥当性を欠いていたところがあるかというようなご指摘もあらうかと思っておりますので、そこは今のご意見を踏まえて、新たな今進行中の第一次実施計画について、そのような視点を配慮してまいりたいと考えております。

○須保委員 守屋委員からも話があったのですが、評価の継続性、今後の事業の継続性、これについて、せっかく9ページ以降に一覧表が出ているのですから、この中にしっかりとそういった部分も織り込んでいく必要があるのではないのでしょうか。事業の終了や継続、追加について総括表で見られるような形に入れていただければと思います。それから、数値が円単位で出ていると非常に数字が多くなってわかりにくいので、できれば1,000円単位にさせていただけるよう事務局で検討していただければと思いますが、よろしくをお願いします。

○瀧上会長 今、須保委員からお話がありましたように、81のうち42は引き継いだということですので、そのほかに81の中で継続しなかったもの、軌道に乗ったのであえて明記しなかったもの等、いろいろなものが整理としてありますので、それは次の審議会の際に、この81が今度の新しい基本計画のものと実施計画でどのように引き継がれているかといったものの整理を事務局にしてもらいたいと思います。よろしくをお願いします。

ほかにございますか。

○國府濱委員 この報告書はすごく読みづらく、理解が難しいように思います。説明の中で、市側の自己評価の部分があるとありましたが、多分その気持ちが強いのかなと思います。一生懸命皆さんされているのはわかるのですが、先ほども守屋議員も言われたように、実施計画の評価の後に、だからどうなのか、これからどうやって進めていくのかという生かし方を一言つけ加えていただけたら、もう少しわかりやすいものになるんじゃないかと思いました。

○瀧上会長 ありがとうございます。そこは実績報告書の最終的な整理の際に、取り入れられるもの、考慮できるものについては、そういったことを取り入れて、よりわかりやすく整理をしてもらいたいと思います。その点、よろしくをお願いします。

ほかにございますか。

○秋本委員 21ページの地域ケアシステム推進事業についてです。この事業は「概ね達成できた」という評価ですけれども、目標と実績とが、大きくかけ離れておりますので、先ほどから出ていますけれども、目標の設定のところをもう1度考え直していただきたい1つの事業です。

そして、その下の子育て支援地域創設事業（親子つどいの広場）も、市川市は子育て支援に今後力を入れていかなければならない少子高齢化を迎えておりますが、その中で、このつどいの広場が4つになったのは、もう2年ぐらい前だと私は認識しております。それから1つもふえていないというのは、いろいろな理由はあると思いますが、担当所管の努力不足だと私は認識しております。ですから、やはりこの評価は、私としては「不十分だった」としたいところなので、そういう点も今後の問題として考えていただきたい。

それから、1つ質問ですけれども、最後の基本目標5の「市民と行政がともに築くまち」のところで、財政的なところは0円としているんです。市民と協働で進めることは、これから市川市は強く進めなくてはならないところですが、0円であるという理由を説明いただきたい。やはり協働でやるにしても、何かしらの名目で予算をつけるということは今後考えていかななくてはいけないのではないかと考えております。

○瀧上会長 今、特に協働のまちづくりのところの0円というものの考え方ですね。

○事務局（大津） 事業No.72と73が計画額が0円ということで、72、73の説明でよろしいですか。

72、73については、予算計上として、予算案の中には、個々こういった事業では計上しておりません。ただ、例えば73の大学等との連携強化、これは瀧上先生、中島先生、それぞれの大学と共同で進めている包括協定については、もちろん職員の人件費等を含めると事業費はかかっているわけですが、それはカウントしていないというところであろうかと思います。それが1つ。それから、市民参加の推進につきましては、審議会の委員としてご参加されている公募市民が参加しているものを指標として、あるいはパブリックコメントの件数、こういったものも、1つは職員の人件費がかかっておりますし、審議会の委員としては、この総合計画審議会も事業費はかかっております。ただ、市民参加の推進という事業はないというところで、計画額を0円にして、職員人件費、マンパワーで支えられる事業ということで0円にさせていただいた経緯がございます。

○瀧上会長 よろしいでしょうか。

○秋本委員 はい。

○坂田委員 31ページ、事業No.18家庭教育学級運営事業についてです。計画額に対して実績額が低い、また、目標の参加人数に対して参加実績が低かったということで、評価が「やや不十分だった」、これは非常にそのとおりだと思いますが、ここ数年見てみまして、参加人数が低いような状況でいるのだったら、最初から計画額をもう少し検討する

ことについてご提案したい。

各学校とも一生懸命、家庭教育学級をやっているのですが、予算を使い切っていないのならば、もう少し予算配分のことを考えていただきたいと思います。というのは、各学校の単価が非常に低くて、1つの企画をするのにも数千円単位でやっているという現状を見ますと、この基本目標である「真の豊かさを感じるまち」に合致しているのかということをお尋ねしたいのですが、その辺はいかがでしょうか。

○瀧上会長 それでは、今のご質問と、それから今のご意見の点については、この実施計画案を最終的に取りまとめる際に、総計審で出たご意見として整理をしてもらうということも考えられますので、よろしくお願いします。

○事務局（大津） 具体的な個々の学校の取り組みについては、手持ちに資料がないのでお答えできませんけれども、今の坂田委員のご意見については、それぞれ個々の事業の評価についての意見を個々の所管課にフィードバックする予定にしておりますので、その中でお話をさせていただきたいと存じます。

○歌代委員 21ページの事業No.5地域ケアシステム推進事業について、「概ね達成できた」とあります。この「概ね達成できた」のは、評価のところに、「サロン活動をはじめとした様々な取り組みを住民主体で実施していることから」、これはまさにそうなんですよ。しかしながら、役所については、活動の現場にいる立場から申し上げると、まだまだ不十分であると見られています。その一例といたしましては、コミュニティワーカーの増員とか、そういう点でまだまだ不十分であると思われる。

それからもう1点、70ページ、事業No.62市川漁港整備事業、これは「やや不十分だった」とありますが、私はその下の「不十分だった」であると思います。設計は終わった段階だとは思いますが、それから1つも進んでいない。評価のところの「平成24年度に遅らせた」ということですが、24年度においてもできないんじゃないかと思っておりますので、ここは評価は「不十分だった」と私は思います。

○瀧上会長 今の歌代委員のご意見につきましては、総計審において、そういう意見が出たというのを、この整理の際にご検討いただきたいと思います。

○中島副会長 50ページ、事業No.36耐震診断助成事業と30ページ、事業No.17. 教育施設耐震改修事業についてです。30ページの教育施設のほうは「概ね達成できた」ということ。それで、私は命を守るのが基本だとすると、教育施設の耐震は、目標達成率87%で「概ね達成できた」と喜んではいけないのではないかとすごく思っていて、やっぱりこれは

100%できなかったことについては、少し深く考える必要があると思います。いつ起こるかわからない震災に対して、その達成しなかった4棟について、心配があるなというのが1つです。

それから、50ページの耐震診断助成事業については診断制度と助成制度があって、制度的にはいろいろ工夫はされているんですけども、これは事業費が安くなってよかったという話には絶対にならないと思います。合理化・効率化を図り予算を軽減できたとか、そういうふうに言える事業があるかもしれませんが、この事業は耐震診断をやり、助成をやり、全体として耐震性能を上げていくことができたということで、お金も使わなければいけないし、数値の実績戸数だとか棟数もある程度やっていかなければならない中身ですね。私はこの分野なので、実際よくわかるのですが、これは、診断をやって、その次に改修するという、その間がとても難しいわけですね。だから、今広がっているのは、「よりまし耐震改修（簡易耐震改修）」とか、つまり基準法を満たしていなくても、1.0までやらないと改修できないということの間ぐらいをとって、0.7ぐらいでもいいような改修をして、少なくとも命は助けるとか、そういうことをやらない限り伸びないとか、あるいは改修費に対して国とか県の補助を拡大するとか対策がもっと必要だと思います。評価としたら、私も、「やや不十分だった」とのんびり言っているのではなく、「不十分だった」と、本当にこれはちゃんとやっていかなくちゃいけないという評価にしたほうがいいのではないかな。それを、市だけではもう限界がある事業ですから、もっと上のほうに働きかける必要があると思います。

○瀧上会長 今の中島委員のご意見については、総計審での指摘があったという形で、実施計画の整理に当たってご検討いただきたいと思います。

ほかにございますか。

○小泉委員 初めて質問させていただきます。本年度よりこの審議会に入らせてもらったので、2回目で質問させていただきますが、そもそもこの協議している実績の報告案、そして、この審議会がこれについて今議論させていただいているわけですが、しかし、23年度は第一次実施計画、第二次基本計画に沿って新たな3年間が始まっているわけです。今ここで皆さんが議論をして質問等しているものを、また実施計画のほうに反映するというふうにされておりますけれども、今議論をしているけれども、もう既に4月1日から一次の実施が始まっているわけですから、いささか遅いのではないかなと思います。ただ、もちろん市役所の皆様、企画の皆様も3年間終わった上で過去を振り返って、よかったか悪

かったかというので、今、「不十分だった」、もしくは「やや不十分だった」、「概ね達成できた」となっていると思いますけれども、このそもそもの総括自体が、このタイミングというのにちょっと疑問を感じているのですが、それはいかがでしょうか。

○瀧上会長 それについては、私のほうからまず説明させていただきます。

今年度からスタートした第二次基本計画、それから、そのもとの第一次実施計画の策定に当たっては、平成22年度の実績は出ませんでしたけれども、21年度までの実績と、その検討時点までの進捗状況は踏まえて第二次基本計画をつくり、そして、そのもとの第一次の実施計画もつくらせていただいております。それで、今回このタイミングというのは、23年度が決算も含めて事業結果が取りまとまったので、それを踏まえて、それぞれの担当の部局で3年間の総括をやってもらったということで、ちょっとタイミングが遅いと言われれば、まさにそういう面はございますが、今審議する理由ということで申し上げれば、ここでローリングをやっていくわけですが、この総計審からどういうご意見が出たかということは、この実績報告の取りまとめに当たっても参考にしてみらうとともに、今年度はもう1回総計審がありますので、そこで第一次計画の進捗状況の審議の際に、本日出ました意見も踏まえてご審議をしていただいて、次年度の計画についていろいろとまたご指摘、ご示唆をいただくといった趣旨できょうの会議は開催されていると私としては理解いたしております。

事務局のほうから何かあれば。よろしいですか。そのようなことで、ひとつご理解いただければと思います。

○小泉委員 ということで、今、会長さん、お答えありがとうございます。私も今年度から初めて入れさせていただいたものですから、申しわけありません。また、3年サイクルで実施計画を練っていくわけですが、毎回ここで出たものについては、できる限り速やかに担当課のほうに、今出席されている行政の皆さんのほうからまた伝えていただけたらなと思います。それが3年ごとにフィードバックされて事業に反映されるのではなくて、年ごとにできるだけ早く、ここでもこういう意見が出ましたというのを伝えていただいて、できれば、どういう反応があったかというのを、毎回毎回の審議会で報告があるとうれしいなと思います。

○瀧上会長 その点につきましては、この審議会の運営に関する問題でありますので、今日でたご意見は速やかに担当のほうに連絡してもらって、この実施計画の中の整理の中に総計審の意見として整理すべきものは整理してもらい、そしてまた、今進めている実施計

画の推進に当たって参考にすべきものは参考にしてもらい、そして次の総計審でローリングする際に、そういった面も含めてご報告してもらおうということにしてもらいたいと思います。

○事務局（大津） そのとおりさせていただきたいと思っていますし、特に実施計画につきましては、これまで3年計画をつくって、計画をつくる時は所管も予算の裏づけがとれるというような意図があって非常に一生懸命なのですけれども、3年過ぎてみて、改めて評価してみるとどうだったのかというのが余り意識してこなかったところがあります。これは事実でございます。やはり毎年毎年、実施計画がどうだったのかというのをきちんと所管に意識づけることが必要だというのは、まさにそのとおりだと思います。そういう意味で、総計審の委員の皆さんの意見をフィードバックすることが1点、それから、毎年毎年予算を策定する際には、この109事業については当初予算の概要にきちんと事業費、事業内容、目標を記載させていただいて、決算のときの主要な成果のときには、109事業がどうだったのかということを取りまとめさせていただいて、常に実施計画事業の進捗管理をすることによって基本計画の推進に役立っていきたいと考えております。

○瀧上会長 それでは、ほかにございますか。今までこの実施計画案の評価等、取りまとめ方、取りまとめ内容についていろいろご意見をいただきましたけれども、あと若干時間がございますので、ご意見をお願いいたします。

○山口委員 私、農協にいますので、農業関係のことを申し上げますと、皆さんのところに第3次実施計画の冊子があると思うんですけど、その中の91ページに「市民と共存する都市農業の振興のために」という施策がありまして、3点ほど掲げてあります。ただ、こちらのほうの実績報告につきましては、休作農地の活用という部分では大変結構なのですが、市役所でやっていることが全く表に出ていない部分があるんです。我々は市からの補助を受け、減農薬等実施しているものがあります。干ばつに対して灌水井戸の補助や、防虫網等実質的にやっていただいているものがあるんですね。農家の方がこれを見たとき、恩恵を受けている方々はわかるのですが、それ以外の方々は、こういうことがあるというのが全くわからないんですね。ですから、それを計画で経済のほうでやっていますので、農園体験事業だけではなくて、農業に対してちゃんと市が助成をしていますよというのをもっと発信していただきたい。最終的にはもっと広げていっていただきたい。今後、表示をいただけるようお願いいたします。

○事務局（大津） ご指摘のとおり、今日はお配りしていないのですが、第一次実施計画

の中では、今言った施策ごとにきちんと支える事業、中心的な事業を抽出して実施計画をつくっております。ですから、農業振興ということであれば、この第三次では体験農業だけを掲載させていただきましたけれども、第一次実施計画はきちんと基本計画とリンクする形で中心的な事業ということで、都市農業の振興支援事業ということで補助事業も掲載させていただいていますし、ブランド化の推進事業、あわせて体験農園事業を進捗管理していく事業として位置づけているということでございます。

○山口委員 今私の言ったことは相当前からやっているものです。新たに始める事業ではなく、もう何十年もやっている助成です。そういうのがおざなりになってきている。おざなりというか、実質こういうことをやっていますよと、市としては全面的に出していいと思うのです。それが出していないで、なぜ市民農園ばかり出していくのかというのが私には疑問です。

○瀧上会長 ただいまの点は、この部分のところに総計審でのそういったご指摘があったということで整理の際に検討してください。

ほかにございますか。

それでは、多くの委員の方にご発言いただいたのですが、まだ何名かのご発言をいただいている委員の方がおられるのですが、いかがでございましょうか、ご発言いただければと思います。

○酒井委員 私は文化活動を中心にやっております、44ページの事業No.31、地域文化振興事業についてです。街回遊展という事業がございますけれども、計画額、実績額等々の、特に22年度は差があったりする原因は何かということを考えておりました。こういう文化活動は、目標額があって、目標が達成できなくても、とても大切な活動かと思えます。数字とか実績だけでははかり知れない事業ということで、こういうことをどう評価しながら展開していったらいいのかなと今伺っておりましたが、特にそういう文化活動は、出た数字とあれだけでははかり知れないものがあるのではないかなと感じております。

○瀧上会長 ありがとうございます。渡邊委員いかがでしょうか。

○渡邊委員 55ページの事業No.43街頭防犯カメラ設置事業について、警察という立場から話させていただきたいと思います。

この春に市川へ転勤してきてまして、まず、署長から、市川市はすばらしい市ですと、その1つは、街頭に防犯カメラが設置されて、防犯的に非常にすばらしいところであるということを知りました。その中で、この事業の中を見ていったときに、20、21、22年度とい

う形で計画額、実績額ということで予算を組んでやってくれているということで、非常にありがたく思っております。今警察でも、これをさらに多くしてもらえないかということでお願いしているところでもあります。今日見たところ、予算的にも計画額がもう少しあるということを見ましたので、これは私の要望ということで、できればぜひこれを推進していただいて、全国に市川市ありというような形でいっていただければなと感じたところでもあります。

○瀧上会長 ありがとうございます。それでは、佐藤委員、いかがでしょうか。

○佐藤委員 私も今回就任させていただいて、本来であれば鉄道なり交通に關しての話をすべきなのでしょうけれども、たまたま先日、行徳エリアで神輿つくっている中台さんという方と話をしました。ここにも千葉県の文化の振興とか、そういうものに対しての取り組みとかがありましたけれども、計画という話からちょっと離れてしまいますけれども、NHKでも行徳あたりにお寺も40ぐらいあって、そういった海外交流とかも触れられておりましたが、江戸のころからの神輿ですとか、秋祭りとか、文化とか、そういうものを生かす、これはお金だけでなくて市政として取り組んでいただければ、ますます市が豊かに、市民1人1人が豊かになる。そういった気持ちを持ちながら、古いものも大切にしていってほしいなということを申し上げさせていただきます。

○瀧上会長 ありがとうございます。では、生田委員、よろしゅうございますか。

○生田委員 24ページ、事業No.9 保育園整備計画事業について保育園の立場から申し上げます。行徳あけぼの保育園、22年度の事業で、おかげさまで保育園が新しくなりました。定員もふえまして、すばらしい園ができましたので、今後、頑張っていこうかなと思いつながら、このページを見させていただきました。今いろいろと考えていた最中なので、また何かお話しできることがございましたら、次回いろいろとまとめてまいります。

○瀧上会長 それでは、最後に潟山委員お願いします。

○潟山委員 先ほどから、いろいろとご意見が出ておりますので、その繰り返しになってしまいますが、評価について定性的といいますか、基準がいま1つあいまいにならざるを得ないと思うのですが、事前に資料を拝見しそういった感じを持って今日参上いたしました。市民の皆さんに、より伝わるような工夫をしていただければという感想を持ちました。

○瀧上会長 ありがとうございます。皆さんから非常に貴重なご意見をいただきました。事務局はただいま皆さんからいただいたご意見を踏まえて、実績報告書の作成、取り

まとめ、それから今後の計画の推進に十分反映をしていただくように、よろしくお願いいたしますします。

それでは、委員の皆様からのご意見は以上にとどめさせていただきまして、事務局から連絡事項があればお願いします。

○事務局（大津） 長時間にわたってご審議いただきありがとうございました。会長からご指摘いただきましたとおり本日の数多くいただいた意見を踏まえまして実績報告を取りまとめてまいりたいと思います。あわせて第一次実施計画について、今回いただいた意見を踏まえて、ローリングの際に活用してまいりたいと考えておりますので、またまとまりましたらご意見をいただきますので、よろしくお願いいたしますします。

本日の会議の会議録につきましては、まとまり次第、前回と同様に郵送で確認をお願いしたいと存じます。その節には、よろしくお願いいたしますします。

なお、次回の総合計画審議会につきましては、市議会の２月定例会終了後の３月ごろを予定しております。内容については、第一次実施計画の平成24年度の実施内容について御審議をお願いしたいと考えております。詳細につきましては、日程が確定次第、改めてご連絡させていただきますので、よろしくお願いいたしますします。

事務局からは以上でございます。

○瀧上会長 それでは、以上で平成23年度第２回市川市総合計画審議会を終了させていただきます。長時間にわたりましてありがとうございました。

午後４時30分 閉会